

研究種目：基盤研究（C）一般
研究期間：平成19年度～平成22年度
課題番号：19500515
研究課題名（和文） 近世為政者の武芸実践と武芸政策に関する文献学的研究

研究課題名（英文）

研究代表者

（菊本智之）

研究者番号：70267847

研究代表者の専門分野：武道論、近世武芸思想史

科研費の分科・細目：身体教育学

キーワード：近世武芸、為政者、武芸実践、武芸思想、武芸政策

1. 研究計画の概要

徳川将軍家を頂点とする近世武家社会において、軍事政権の為政者がどのような武芸実践を行い、その結果どのような武芸思想を生み出し、それが政治に反映され、社会に発信され影響を与えていったのかを明らかにしていくために、時代を代表する為政者をピックアップし、その人物の残した武芸関係史料や行状の記された史料にあたり、解読分析を行う。平成19、20、21年度は、主に徳川幕府中興の祖徳川吉宗、松平定信、真田幸貫に関する史料の調査、蒐集、解読、分析などを行い、考察を進め、21年度からは『徳川實紀』にあたり、徳川吉宗までの徳川宗家の将軍の事蹟から武芸実践、政策について研究を進める。平成22年度は、徳川15代の将軍の武芸実践や政策とともに、時の権力者の武芸実践や打ち出した政策なども併せて調査研究を進め、近世武家社会が為政者の武芸実践、武芸嗜好、武芸観、武芸思想によってどのように影響をうけ、社会を形成してきたのか明らかにする一助とする。

2. 研究の進捗状況

最終的に近世全般にわたる研究となるため、膨大な時間を要す。研究機関の前半2年間で、近世中期以降の徳川吉宗、松平定信、真田幸貫など江戸の三大改革に関わった為政者の一次史料や周辺史料にあたり、解読、分析を行うとともに、専門的知識の提供を受けながら考察を進め、学会でその成果の一部について発表を行うなどした。21年度は、これらの研究をさらに進めながら、徳川各将軍の武芸実践について調査するため『徳川實紀』の調査を行っている。『徳川實紀』の記載内

容もまた、膨大な量があるため、現在、徳川前期の将軍について整理、分析を行っている。

3. 現在までの達成度

史料の調査、分析、解読に時間がかかり、計画以上に整理が進んでいない。現在までの達成度は6割程度と考えている。

4. 今後の研究の推進方策

それぞれ史料の整理、研究成果のまとめなどが不十分であるので、今年度最終年度となるので、一応の成果をまとめる方向で、修正を行う。具体的には、多くの為政者にまで対象を広げているので、時間的に22年度内に全てを調査、分析、研究を進めることは難しいため、各時代を代表する為政者を絞り込むことで、本研究の当初の目的達成に近づける努力をする。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計3件）

- ・『『起倒柔道五巻其外口訣 全』に関する一考察』菊本智之 日本武道学会第40回大会（於：東海大学）平成19年8月30日
- ・『鈴木家『神武柔道秘録』と水野忠通著述『柔道秘録』にみる起倒流柔道の発展過程に関する一考察』菊本智之 日本武道学会第41回大会（於：慶應義塾大学）平成20年8月29日
- ・『『富嶋氏意 起倒流組討心持聞書』に関す

「一考察」菊本智之 日本武道学会第 42
回大会（於：大阪大学）平成 21 年 8 月 25
日

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕